

# JA全農 とくしま情報

地域の話題や活動のご報告  
今後のお知らせなど  
JA全農とくしまと、あなたをつなぐ  
コミュニケーション情報誌

2023  
10月号  
No.768



青果セットを手渡す園芸部職員(レゾナックドーム大分)

## マンスリーレポート 2

- ・JA全農とくしま阿波配送センター新築工事起工式
- ・知事と畜産振興に関する意見交換
- ・徳島名西警察署へ新米贈呈
- ・京都の小学生が農産物の栽培学習
- ・すだち大使が羽田空港で徳島県産スダチをPR
- ・大分トリニータVS徳島ヴォルティス戦  
カボスとスダチのコラボイベント
- ・四国アイランドリーグplus2023チャンピオンシップ
- ・阿波おどり空港で半田そうめんとスダチのコラボイベント

## 旬の野菜でおうちごはん 6

- ・生しいたけのサラダ

## 浜ちゃん・ちっちゃんのうまいモノ絵日記 7

- ・その⑩ ～外国人に大人気の日本食～

## 交通安全のお知らせ 7

- ・夜間の交通事故防止について

## トピックス 8

- ・営農コラム

# マンスリーレポート

～県西部の新たな配送拠点でJA経済事業の支援～

## JA全農とくしま阿波配送センター新築工事起工式

9月13日、当県本部は、阿波市阿波町で「JA全農とくしま阿波配送センター新築工事起工式」をおこないました。

起工式には関係者13名が出席し、神事がつつがなく執りおこなわれ、施主を代表して坂本雅彦県本部長が「世界情勢の変化に伴う資材価格高騰など、農業を取り巻く環境は非常に厳しい状況である中、当県本部はJAや農家組合員の更なるニーズに対応したサービスを提供するために、様々な購買・販売事業の改善・改革に取り組んでおります。今回、県西部に新たな配送拠点を設置し、物流業務・事務作業の効率化を目指し、配送サービス向上による農家組合員へのメリット創出とJA経済事業の支援に繋げてまいります」とあいさつをしました。

今回の新築工事では、肥料倉庫、作業用上屋および新事務所棟を新設することとしており、設計監理はJA全農西日本広域施設農住事業所徳島施設農住事務所がおこない、全施設の完成は令和6年3月の予定です。



起工式であいさつをする坂本雅彦県本部長



神事の様子

～生産現場の厳しい状況を訴え～

## 知事と畜産振興に関する意見交換

9月4日、県内畜産生産者団体は、徳島県庁で後藤田正純徳島県知事と「畜産振興に関する意見交換会」をおこないました。

県内畜産生産者団体の徳島県畜産協会、徳島県養鶏協会、徳島県阿波尾鶏ブランド確立対策協議会、徳島県養豚協会、徳島県酪農業協同組合、徳島県肉用牛振興協会、JA全農とくしまの代表者が出席しました。

本会からは宮田卓次副本部長が出席し、新型コロナウイルス感染症の規制緩和やインバウンドの回復による需要・消費の拡大が期待される中、飼料・資材価格の高騰をはじめ生産現場では厳しい状況が続いていることを説明しました。

知事からは「農畜産業はもとより様々な産業において経営の効率化や生産性向上などの取組みをされることについて県もしっかりと支援していく。「自給力」を失わない体制づくりを通じて、農業・畜産をしっかり守っていく」との力強いお言葉をいただきました。



意見交換を行う宮田卓次副本部長(右端)と関係者

～特殊詐欺防止および交通事故防止キャンペーン活動に協賛～

## 徳島名西警察署へ新米贈呈

9月11日、当県本部は徳島名西警察署の特殊詐欺防止および交通事故防止キャンペーン活動に協賛し、配布用グッズ(お守り)に使用する米を贈呈しました。

徳島名西警察署では同キャンペーンを実施するにあたり、「愛【藍】で特殊詐欺を封じこめ【米】」、「愛【藍】情運転で交通事故を封じこめ【米】」と銘打った、藍染の生地の袋に米を入れたお守りを職員が約300個制作する予定です。

当日は当県本部の宮田卓次副本部長より徳島名西警察署の濱川功署長へ「安全・安心な徳島県の実現のためにお使いください」と新米(コシヒカリ10kg)を手渡しました。



宮田卓次副本部長(右)より濱川功署長(左)へ米10kgを贈呈



配布用グッズのお守り

～栽培体験を通して食の大切さを伝える～

## 京都の小学生が農産物の栽培学習

当県本部園芸部は、子供たちに農産物を育てる大変さと喜び、また食べ物を大切に作る心や農家生産者の方々を思いやる気持ちを育んでもらうため、県内JAをはじめ、パートナー市場や関係機関と連携し、定期的に小学校での栽培学習会を実施しています。

9月には、京都の小学校2校で「大根の栽培学習会」を開催し、JA里浦南経済センターの藤原令路職員がリモートで大根の種類や特徴、種のまき方、上手な育て方などについて、動画を交えた説明で授業をおこないました。生徒たちは砂地で栽培される大根にとっても興味を示し「収穫までの期間は?」「なぜ間引きをするのか?」といった質問を次々と藤原職員に投げかけ、楽しく学習しました。

また、各小学校には市場や県、当県本部の職員が出向き、リモート授業後は実際に圃場に出て播種作業をおこないました。



リモート授業を行うJA里浦の藤原令路職員

### ◆京都市立朱雀第三小学校

9月27日、JA里浦、京都青果合同株式会社、徳島県関西本部協力のもと、5年生(59人)を対象に開催しました。

授業を受ける朱雀第三小学校の生徒▶



### ◆京都市立光徳小学校

9月27日、JA里浦、京都青果合同株式会社、徳島県関西本部協力のもと、5年生(44人)を対象に開催しました。

圃場で園芸部大阪事務所職員から播種作業の説明を受ける光徳小学校の生徒▶



# マンスリーレポート

～利用客にスタチやザすだち(飲料)を配布～

## すだち大使が羽田空港で徳島県産スタチをPR

9月14日～15日の2日間、徳島県すだち・ゆこう消費推進協議会(会長=坂本雅彦県本部長)は、日本航空株式会社徳島支店、徳島県、とくしまブランド推進機構の協力により、羽田空港内の有料カードラウンジで「徳島すだち」のPRイベントをおこないました。

両日とも日本空港ビルディング株式会社が運営をする第1ターミナル・2階「POWER LOUNGE NORTH」前では、すだち大使の平石静香さんが徳島すだち(3個入り小袋)とザすだち(飲料)のセットをラウンジ利用客約1,000人に配布しました。

また、同ラウンジ内において、JALふるさとアンバサダーの上杉遥菜さんらが参加した「神山町でのスタチ収穫体験」の動画を大型スクリーンで放映し、徳島すだちの認知度向上を図りました。



徳島県産スタチの紹介展示コーナー



ラウンジ利用客へスタチセットを手渡すすだち大使の平石静香さん



動画放映されたスタチの収穫体験を行うJALふるさとアンバサダーの上杉遥菜さん

～すだち大使らが「徳島すだち」をPR～

## 大分トリニータvs徳島ヴォルティス戦 カボスとスタチのコラボイベント

9月16日、徳島県と徳島県すだち・ゆこう消費推進協議会(会長=坂本雅彦県本部長)は、大分県大分市のレゾナックドーム大分で開催されたサッカーJ2リーグ戦「大分トリニータvs徳島ヴォルティス」で、大分かぼす×徳島すだちコラボイベントをおこないました。

この取組みは地理的表示(GI)保護制度に登録されている「徳島すだち」と「大分かぼす」の認知度向上や消費拡大を図るのが目的です。

イベントは「ドームの外でも負けられない戦いがここにはある」をテーマに、すだち大使の平石静香さん、徳島県、当県本部園芸部、大分県、大分県本部関係者をはじめ両県のマスコットキャラクター「カボたん」と「すだちくん」も参加して、カボスとスタチの味食べ比べやカボスとスタチの青果セットの無料配布をおこないました。

普段同時に味わうことのない両県を代表する特産の「徳島すだち」と「大分かぼす」の味や魅力を多くの観戦者にPRし、知名度アップに繋がりました。



青果セットを手渡す園芸部職員



ドーム内で両県のマスコットたちとイベントをPRするすだち大使の平石静香さん

～すだち大使が徳島県産スタチや米をPR～

## 四国アイランドリーグplus2023チャンピオンシップ

9月22日、徳島県と徳島県すだち・ゆこう消費推進協議会(会長=坂本雅彦県本部長)の関係者は、徳島市のむつみスタジアム(蔵本公園野球場)で開催された四国アイランドリーグPlus2023チャンピオンシップ「徳島インディゴソックスvs愛媛マンダリンパイレーツ」で、徳島県産のスタチと県産飲料(ザすだち)をPRしました。

前後期ともにリーグ優勝を果たした徳島インディゴソックスが、短期決戦のチャンピオンシップで年間総合優勝を狙う試合ということもあり、親子連れなど多くの観戦者が訪れていました。

関係者は開場の17時00分から入場ゲートで「徳島県の特産品をご賞味ください」と声をかけながら、先着200人にスタチ3個入り小袋とザすだち(飲料)を手渡しました。

試合前のセレモニーでは、伊藤大輔徳島県副知事の激励のあいさつの後、すだち大使の桧妃菜さんが両チームに新米(あきさかり10kg)を贈呈しました。

なお、試合は5-2で徳島インディゴソックスが勝利を収め、前後期完全制覇に続く堂々の年間総合優勝を果たしました。



入場ゲートでスタチとスタチ飲料を手渡すすだち大使の桧妃菜さん



両チームに新米(あきさかり10kg)を贈呈

～スタチを添えた半田そうめんの味をPR～

## 阿波おどり空港で半田そうめんとスタチのコラボイベント

9月23日、徳島県すだち・ゆこう消費推進協議会(会長=坂本雅彦県本部長)は、松茂町の徳島阿波おどり空港で開催された「半田そうめん『入魂』試食イベント」(主催=半田手延べそうめん協同組合)に協力し、徳島県産スタチをPRしました。

到着ロビーでは、同組合員や後藤田正純徳島県知事、県、当県本部、すだち大使、阿波おどり空港のマスコットキャラクター「Airすだちくん」などが東京や福岡から到着した搭乗客を出迎え、茹でたての「半田そうめん『入魂』」に県産スタチが添えられた300食を試食してもらいました。また、すだち大使の平石静香さんと当県本部園芸部職員も「徳島県産スタチをどうぞ!」と元気よく呼びかけ、スタチ3個入り小袋を200人に手渡しました。

試食をした旅行客らは「麺が少し太いんですね!スタチがさっぱりして美味しいです」、「スタチの爽やかな風味が素晴らしい!」と美味しそうに味わっていました。



半田そうめんに県産スタチが添えられた試食



スタチを手渡すすだち大使の平石静香さん



到着ロビーで半田そうめんの試食やスタチを手渡す関係者

料理研究家HITOMI先生が薦める、簡単スピーディー、そして楽しんで作れるレシピをご紹介します!



## 生しいたけのサラダ



### ▼材料(2人分)

- 生しいたけ(中) …………… 4~5枚
- 貝割れ菜 …………… 1/2パック
- 鮭フレーク …………… 大さじ2
- 砂糖 …………… 小さじ1
- マヨネーズ …………… 大さじ2

### ▼作り方



- ① 生しいたけは一口大に切り、強火の蒸し器で4分蒸す。
- ② 温かい間に砂糖を混ぜる。お好みでこしょうをふる。(分量外)
- ③ 鮭フレークとマヨネーズを混ぜ、貝割れ菜を散らす。

### POINT

砂糖が蒸した際のきのこ独特の苦味を中和。



料理研究家 HITOMI <http://www.hitomi-cook.com>

◎免許:調理師免許、食空間テーブルコーディネーター2級、JA全農とくしま園芸部 クッキングアドバイザー  
 ◎賞:2014年NHK社会貢献賞授与 ◎活動歴:TV=NHK徳島放送局料理コーナーレギュラー出演/ラジオ=TBS「伊集院光とラジオと」に毎月レシピ提供 ◎JA全農とくしまとのコラボイベント:大阪ガスハグミュージアムにて鱧を使った爽やか料理講習会/大阪中央卸市場にて徳島県の食材を使った料理講習会 ◎カルチャー講師:兵庫イオンカルチャー(姫路、加古川、明石の3店舗)講師/神戸市立長田区勤労センター、神戸市立西区民センター講師 ◎店舗用レシピ開発、商工会での商品開発など



文：濱堀秀規 イラスト：ちっちゃん

## その161

### ～外国人に大人気の日本食～

#### ◆外国人から絶賛の日本食◆

訪日外国人が、コロナ前と同程度の数まで戻って来ているとのニュースネット動画のYouTubeではインバウンドで日本に来た外国人へ「日本に来られた目的は?」とのインタビューをしている記事を見かける。

彼らの回答は、

- ①「幼い頃から日本のアニメや漫画を見て育った」という日本のサブカルチャー文化へのあこがれ
- ②日本人の他人へのお辞儀や笑顔などの、人に対する礼儀正しさや思いやり
- ③道にはゴミ箱が少ないのにゴミ事態がないクリーンな公共の場所での清潔感
- ④雑踏の都市の中でも公園の静けさや、神社やお寺など伝統と、近代的なビルが隣接する空間のすばらしさから受ける癒やし。
- ⑤電車や新幹線やバスが時間通りで公共の移動手段の便利さなど  
多方面から日本を褒めちぎってくれる動画を見入っていると、うれしくなる。

#### ◆「和食を食べ尽くしたい」外国人◆

その中でも、インバウンド（海外から日本へ来られた人々）で大人気の和食、おいしい日本食を食べ尽くしたい。日本食は何を食べても、ちょっとしたお店でも安いのにおいしい。たくさんの外国人の多くが、日本食はこんなにおいしいのかと褒めちぎってくれている。自国にももちろん寿司やラーメンはあるが、やっぱり本物の寿司は違う。ラーメンもおいしさが自国とはレベルが違う。天ぷらもベトベトしていなくて軽くてサクッとしている。すき焼きやしゃぶしゃぶで味わう和牛。自国にはない素材のおいしさを通じ

て日本の食文化に感動する外国人を見るたびに、食材を生産したり流通させている多くの人々にも誇りに思っていて欲しいと思う。同時に、米を含む農産物が安すぎるのではと感じている。

#### ◆日本の米はふっくらして甘い◆

今年は米の価格も少しだけ上がっているが、外国人が驚きながら褒めてくれるのは、日本の主食のお米である。ふっくらして粘りがあるので、お箸で食べることができるし、甘みを感じるとのこと。お箸も上手に使える外国人が増えてきている。

鳥山明原作のアニメ「ドラゴンボール」には、亀仙人という、女性好きのおじいさん仙人というキャラクターが登場するが、日本には、お米をおいしく炊く「釜仙人」がどこにでもいると思う。日本米をおいしく炊き、新米をいただくと思うと、口の中がご飯口になってきた。あつよだれが…。



#### ◆徳島の食ももっと食べてもらって、評価をしてもらいたいなあ◆

徳島には、外国にはない、スダチやユズなどの特産品もあり、興味を持ってもらえるだろうと信じている。大都市だけでなく、四国にも訪日外国人が増えて欲しいし、もっと海外にも日本食や徳島の特産品、食の素晴らしさを知ってもらいたいと思っている。

## 交通安全のお知らせ

### 夜間の交通事故防止について

日が暮れるのがだんだんと早くなってきましたね。夜間になる直前の「薄暮」は周囲の見え方が刻々と変化するため、危険に気付くのが遅れやすくなります。昨年、交通事故の発生が最多の時間帯は、午後4時から午後6時までの間でした。夕方の帰宅時間と重なることから、ドライバーや歩行者の方は以下のことに注意し、交通事故防止に努めてください。

#### 1 早めのライト点灯の推進

徐々に暗くなる薄暮時は、周囲の歩行者やドライバーからは自身の車が見えにくくなっています。早めのライト点灯は、自らの視界を明確にするだけでなく、周囲の通行者に対して、自身の存在を知らせる効果がありますので、概ね日没の30分前を目安に早めのライト点灯を心がけましょう。



#### 2 歩行者等の反射材用品等の活用

薄暮時や夜間に外出する際には、明るい服装を心がけ、反射タスキや反射シールなどの反射材用品を身につけましょう。

反射材用品を着用することで、通行車両が歩行者等の存在により早く気づくことができます。

反射材用品を身につけて、自身の存在をアピールしましょう。

#### 3 上向きライト(ハイビーム)の効果的な活用

前方をできるだけ見えるようにするには、ヘッドライトをこまめに上向きにする必要があります。

ライトを上向きにすることで、遠くまで光が届くようになり、見える範囲も広がります。その分、早く歩行者等を発見することができるため、交通事故防止につながります。

ライトは上向きが基本ですが、対向車と行き違うときや、ほかの車の直後を通行しているときは、前照灯を下向きに切り替えなければなりません。交通量の多い市街地の道路などでは、こまめに前照灯を切り替えて運転をしましょう。

自転車についても、歩行者や他の車両との事故を防ぐため、早めにライトを点灯させ、安全運転に努めましょう。



# 営農コラム

## 食卓の向こう側

営農支援課 技術主管 隔山 普宣

『食卓の向こう側』という本をご存じでしょうか。西日本新聞社が『食卓から健康を考えた』長期連載をブックレット(小冊子)にまとめ、シリーズ化したものです。そのブックレットの内容を分かりやすいように漫画にしたコミック編が2007年に発行され、この度大幅加筆され、健幸法を新たに加えた『新版食卓の向こう側コミック編+健幸は口から』が今年刊行されました。

新版の内容は、毎日の食事が子供の成長・体・心の健康になぜ大切なのか。食卓の向こう側(食の大切さ)を漫画で描き、解説編で大学の先生や病院の医師が食卓の向こう側を読み解いています。

具体的な内容は、①若者が即席めんや肉類ばかり食べて、野菜の摂取量が非常に少ない場合、近い将来生活習慣病特に糖尿病にかかる確率が高くなります。②心身病の治療は人間関係が良好な状態を作ること、同時に生活のリズムをきちんと作ること、特に食行動の適正化が最も重要です。③お母さんが食べたものが血になり、血が母乳になり、その母乳を飲んで赤ちゃんは育ちます。そのため、お母さんは栄養バ

ランスのとれた魚や野菜を中心とした食事をとることが大切です。④食育の原点は、「良い口」と「良い歯」です。「良い口」を作るためには、よく噛むことが重要です。「良い歯」は、甘いものに注意して、食べたなら磨く習慣づけと定期健診により守られます。⑤3歳からの幼児教育に土からの食農教育を行ってほしい。朝食をしっかりとること、弁当の日、地産地消などの取り組みも重要です。

第2部の『健幸は口から』では、「治療は医師しかできないが、予防は素人でもできる」という名言を具現化した、お金をかけずに健康になるための提案「あいうべ体操」のメカニズムを漫画で解説しています。アトピー性皮膚炎等の改善例を示し健康は口からと訴えています。私も「あいうべ体操」を実践中ですが、まだ始めてから期間が短いため、効果は良くわかりません。あごの周りが少しすっきりした気がします。

食に対して関心のある方はもとより、子育て中のお父さんお母さん、一人暮らしの若い人たち、生活習慣病で悩んでる人たちに、是非読んで頂きたい本です。



## 営農支援課

### 多家良イチゴ施設で「さちのか」の定植

9月25日、当県本部営農支援課は徳島市多家良町のJA全農とくしま施設園芸実証プロジェクト多家良イチゴ施設で「さちのか」の定植作業をおこないました。

同施設(14アール・ハウス2棟)は、2017年に施設園芸の経営モデル確立と担い手候補者の育成を目的に建設され、苗作りから収穫まで課員と担い手候補者で日々作業をおこない、イチゴに関する様々な実証をおこなっています。

この日は猛烈な残暑のなか、同課員と担い手候補者の7人が汗を流しながらハウス内の高設栽培ベッドに穴をあけ、苗の植える向きを確認しながら手際よく定植作業をおこない、約4,500本の「さちのか」を定植しました。

本年度同施設では、既に「阿波ほうべに」約2,700本が定植されており、この日定植をおこ

なった「さちのか」と合わせて約7,200本の栽培がおこなわれます。



「さちのか」の定植作業を行う営農支援課職員



植える向きなどを指導する営農支援課の隔山技術主管(左)

## 令和5年度全農中国・四国地区県本部野球大会

9月8日～9日、当県本部をはじめ岡山、広島、愛媛の各県本部野球部員や関係者など約90人参加のもと徳島市の「むつみスタジアム(蔵本公園野球場)」で「全農中国・四国地区県本部野球大会」を開催しました。

開会式では、大会委員長の坂本雅彦徳島県本部長の挨拶のあと当県本部野球部大西健太主将による選手宣誓が力強くおこなわれ、各県日頃の練習の成果を発揮する熱戦が2日間に亘り繰り広げられました。

当県本部は初日に1回戦で愛媛県本部と対戦し、投打・守備とも選手一丸となり懸命に頑張りましたが、得点に結びつかず残念ながら敗れました。2日目の3位決定戦でも岡山県本部の堅い守りに阻まれ、実力を発揮することができませんでした。

決勝戦は愛媛県本部と広島県本部の対戦となり、白熱した好試合となりました。最後には愛媛県本部の攻めを守り切った広島県本部が5-3で勝利を収め、10月に埼玉県で開催される全国大会への出場権を獲得しました。

また、徳島市の「グランヴィリオホテル」で開催された懇親会では、各県本部の新人紹介や楽しい余興、有名連藝茶楽による阿波おどりも披露され、賑やかに県本部同士の交流・親睦を図りました。



選手宣誓の様子



試合の様子



交流・親睦を図った懇親会

## 南海ゴルフ杯争奪 第47回徳島県職場対抗ゴルフ大会 予選出場

9月3日、当県本部ゴルフ部は入田町のサンピアゴルフクラブにおいて、南海ゴルフ杯争奪第47回徳島県職場対抗ゴルフ大会予選に参加しました。

本大会は徳島県下の職場どうしが日頃の腕を競い合うアマチュアゴルファーの大会で、部員10人で2チームを構成し、予選3日目に出場しました。

各選手は日頃の練習の成果を発揮し、職場代表としての誇りを胸に、全員が真剣にプレーをお

こないましたが結果は惜しくも予選敗退となりました。来年は予選通過出来るよう、部員一丸となって練習に取り組みます。



大会予選へ出場したゴルフ部員

## ゴルフ部

「かんきつテラス徳島」

とくしま農林水産  
未来人材スクール

徳島かんきつアカデミー

令和6年度

## 受講生募集!

かんきつ圃場での  
充実した現場実習!!

次代を担うかんきつ農家



めざせ!



## 募集要領

- 研修期間
  - ☆中核的人材育成コース 原則1年間（令和6年4月～令和7年3月）  
講義40日程度、実習120日程度、  
農家実習40日程度
  - ☆生産技術力向上コース 選択科目毎に数日程度
- 受講料
  - ☆中核的人材育成コース 16,820円
  - ☆生産技術力向上コース
    - I 接木と整枝剪定 4,100円
    - II 果実栽培管理 8,200円
- 募集人数 両コース合わせて30名程度
- 募集期間 令和5年9月15日(金)～令和6年1月15日(月)  
(定員になり次第終了)

・テキスト代、傷害保険料、資格取得にかかる費用は、実費をご負担いただきます  
・せん定ばさみ、作業着、長靴など、個人の所有物は各自ご準備下さい  
・既納の受講料は還付しません

## 中核的人材育成コース

独立就農を目指す方が対象  
1年を通して栽培から加工・販売までを学ぶコース。  
主要なかんきつ（みかん、すだち、ゆず）の栽培管理技術を学ぶことができます。

## 生産技術力向上コース

生産技術の習得を目指す方が対象。  
2つの科目から、技術習得したい分野を選択して学ぶことができます。

## 応募資格

- 次の条件を満たす者
- ①令和6年4月1日現在で満18歳以上
  - ②県内で就農している又は就農を予定している又は農業参入を考えている企業等の従業員
  - ③徳島県内在住者又は徳島県内移住予定者
  - ④県内で就農している又は就農を予定しているまたは農業参入を考えている企業等の従業員

「かんきつテラス徳島」

徳島県立農林水産総合技術支援センター  
農業大学校（勝浦）

〒771-4301

徳島県勝浦郡勝浦町大字沼江字中筋11-12



0885-42-2545

<https://tonodai.ac.jp/academy/kankitsu.html>



JAの直売所をまわって「おいしい」をもらおう!



# JA直売所 わくわくデジタルスタンプラリー

県内17ヶ所のJA直売所を回ってスマートフォンでスタンプを集める非接触型スタンプラリーです



期間

2023年

10月1日[日]~12月31日[日]

2023年

四国放送アプリ!



※直売所によって、定休日や年末年始休みがございます

スタンプを集めてステキな賞品をゲットしよう!

応募いただいた方の中から、

毎月抽選で100名様にプレゼント!

プレゼント商品

第1期 10月1日[日]~10月31日[火]

第2期 11月1日[水]~11月30日[木]

第3期 12月1日[金]~12月31日[日]



Wチャンス賞

毎月のスタンプラリー終了後に届く、アプリの「お知らせ」のアンケートに答えると



抽選で毎月50名様に 笑味ちゃんグッズをプレゼント!

※アプリの「お知らせ」を通知ONに設定しておいてください

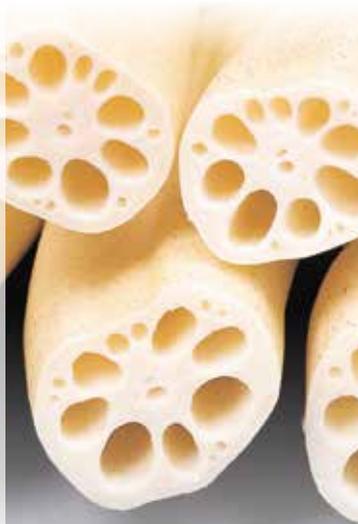
スタンプ設置の直売所



- 1 JA直売所「なつとく市場」
- 2 JA直売所「松茂直売所」
- 3 JA直売所「みはらしの庄 あいさい広場」
- 4 JA直売所「とれとれ市公方」

- 5 JA直売所「よつてえ市」
- 6 JA直売所「めぐみの家 石井」
- 7 JA直売所「すだち 神山」
- 8 JA直売所「JAグリーン アグリ広野」
- 9 JA直売所「JAグリーン となりマルシェ」
- 10 JA直売所「えがお」
- 11 JA直売所「松原直売所」
- 12 JA直売所「土柱の里」 ※営業中ではありません
- 13 JA直売所「JA藤井」
- 14 JA直売所「ひまわり農産市 鶴岡店」
- 15 JA直売所「ひまわり農産市 川島店」
- 16 JA直売所「ふれあいセンター」
- 17 JA直売所「ふれあい農産市」

# 徳島県の れんこん



11/8 は徳島県れんこんの日

JA全農とくしま 徳島県蓮根消費拡大協議会



JAタウン  
「新鮮大好き徳島」



JA全農とくしま  
YouTubeチャンネル



JA全農とくしま  
Instagram



JA全農とくしま  
クックパッド



JA全農とくしま  
ホームページ

### 全農グループ経営理念

私たち全農グループは、**生産者と消費者を  
安心して結ぶ懸け橋** になります。

私たちは「安心」を3つの視点で考えます。

- 営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。
- 安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
- 地球の環境保全に積極的に取り組みます。



JA全農とくしま

<https://www.zennoh.or.jp/tm/>



## 「JA全農とくしま情報」に 関するお問い合わせ先

本紙「JA全農とくしま情報」の購読料・配送料は  
無料です。送付先の氏名・住所変更や、  
送付の停止につきましては、  
JA全農とくしま企画管理課広報室  
(電話 088-634-2462)  
までご連絡ください。

